

南方型・耐暑性牧草

混播草地の夏枯れ解決!

暖地の夏期は、高温と乾燥によって、一般牧草（北方型）は夏枯れを生じますが、この時期に青々と繁茂するのが「南方型牧草」です。

暖地の混播草地において、年間とおして平均した生産をあげるためには、一般の草種と「南方型牧草」とを併用し混播することです。

また、耐暑性の優良品種を選ぶことも大切です。

採草地の混播例 ()内は優良品種

ルーサン (ウィリアムスバーグ)	1.0 ^{kg}
オーチャードグラス	0.5
トールオートグラス	0.5
ダリスグラス	1.0
イタリアンライグラス (マンモスイタリアンB)	0.5
合計	3.5

放繫牧地の混播例

白クローバ (ニュージーランドホワイト)	0.5 ^{kg}
オーチャードグラス	1.0
バーミューダグラス	0.5
バヒアグラス	1.0
イタリアンライグラス (マンモスイタリアンA)	0.5
合計	3.5

耐暑性牧草の発芽を良くするには

—— 耐暑性牧草は元来発芽率の低いものです ——

- ダリスグラス・バーミューダグラス・バヒアグラス・ローズグラスなどは低温での発芽は、きわめて悪いので、気温の高くなった(15℃以上)4月下旬～5月上旬が播種適期です。
- バヒアグラス・ダリスグラスは種子がロウ質ですから、砂づき(種子量の3～4倍の砂を入れてつく)して発芽を促進すること。

雪たね自慢の耐暑性牧草優良品種

ルーサン・ウィリアムスバーグ 直立型で、1, 2, 3番草の収量配分が平均しています。全国的に多収を示し、暑さに強い品種。

ルーサン・デュピュイ 直立型で、再生早く、病害に強く、夏枯れ抵抗性も大きい。永続性良好で、排水不良地にも他品種よりすぐれています。

白クローバ・ニュージーランド・ホワイト 葉が小さく密生し、生産性高く、利用年限も長い。高温乾燥など不良条件に比較的強く、放繫牧に適した優良品種。

ローズ・グラス

最近各地で注目をあつめている新牧草で、草丈120~150センチになり、草質は比較的やわらかく、再生もよく、多収がえられます。

主に青刈利用されていますが、今後、暖地では乾草としても重要視されましょう。

バヒア・グラス

地上ほふく茎によって繁茂し、密生した草地を造るので、主に放牧地用の牧草ですが、採草としての利用も良好です。

家畜の嗜好性も良く、また乾草としても利用できます。

暖地で7月~10月の高温乾燥期に多収。

バーミューダ・グラス

暖地に適し、水分と養分があれば、あらゆる土壤に生育します。

草丈は15~40センチの下繁草で、地上茎と地下茎で草地を広げていきます。

青刈、放繫牧いずれにも利用できますが、主に放繫牧地に適しています。

ダリス・グラス

草丈70~150センチに伸びる採草用永年草。耐暑性強く、暖地で6月~10月によく生育し、多収がえられます。

ダリスグラスの野生種、シマスズメノヒエが九州の水田の畦道路

自生するように、水分の多い土壤に適しますが、耐旱性も強く、南方型採草牧草のナンバー・ワンです。



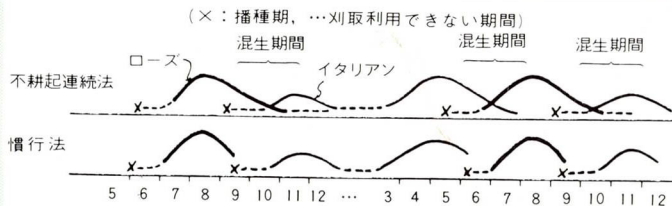
イタリアンライグラス(冬)とローズグラス(夏)の

不耕起・連続栽培法

イタリアンライの衰退する約1ヵ月前に、ローズグラスを株間に播種すれば夏期に入りイタリアンライに代ってローズグラスが繁茂し、又ローズグラスの衰退する約1ヵ月前にイタリアンライを播種すれば、ローズグラスに代って、イタリアンライが翌年夏期直前まで繁茂しますので夏期・冬期共年間平均して青草を生産でき、あたかも永年草地のような不耕起・連続栽培方法が試みられています。

- 播種量 (10㎡当り)

ローズグラス	3~4キロ
イタリアンライ	2~3キロ



不耕起連続栽培法と慣行法との比較